

**デジタル一眼レフカメラのフラッグシップ機“EOS-1D X Mark III”を発売
キーデバイス一新により最高約 20 コマ/秒の高速連写と高精度 AF を実現**

キヤノンは、スポーツや報道、スタジオ撮影などプロの撮影現場に求められる高い性能と信頼性を備えた「EOS-1」シリーズの最新機種“EOS-1D X Mark III”を2020年2月中旬に発売します。



EOS-1D X Mark III
*EF24-70mm F2.8L II USM 装着時

“EOS-1D X Mark III”は、キヤノンにおける最先端技術や最高クラスの性能を備えたフラッグシップモデルのデジタル一眼レフカメラです。プロフォトグラファーはもちろん、動画も撮影するプロフェッショナルのニーズに応えるべく、高画質や高速連写、快適な操作性を高い次元で実現しています。

■ 新開発のフルサイズ CMOS センサー・映像エンジン「DIGIC X^{エックス}」・AF センサーを搭載

新開発の有効画素数約 2100 万画素^{※1}フルサイズ CMOS センサーと、新映像エンジン「DIGIC X」や AF 専用のセンサーなど、キーデバイスを一一新し、基本性能が大幅に向上しています。これにより、AF・AE（自動露出制御）を追従させながら、光学ファインダー撮影において最高約 16 コマ/秒、ライブビュー撮影において最高約 20 コマ/秒の高速連写を達成しています。また、新たに開発した AF センサー「High-res AF センサー」を搭載し、最大 191 点（クロス測距点最大 155 点）の測距点から得られる高解像な信号を解析することで、光学ファインダー撮影時に高い合焦精度を実現しています。

■ 4K/60P/YCbCr 4:2:2/10bit/Canon Log^{※2}による高精細で階調性の優れた動画性能

4K/60P の高精細で滑らかな動画撮影に加え、YCbCr 4:2:2/10bit/Canon Log に対応しており、階調と色彩の再現性に優れた動画を内部記録することができます。また、RAW データでの動画の内部記録もできるため、RAW データの解像度や階調性、編集耐性の高さを生かした高度な動画編集や静止画切り出しを実現します。

■ プロのニーズに対応した通信機能と操作性

有線 LAN 機能や新製品の“ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E9B”（別売り）を用いて、高速で安定した画像転送が可能です。また、カメラ本体の外装部品に新構造を採用し、従来機種「EOS-1D X Mark II」（2016年4月発売）より約 90g 軽量化した質量約 1,440g^{※3}を達成しています。さらに、CFexpress 用のダブルスロットを搭載しています。CFexpress カードの採用により、書き込み速度の向上と RAW+JPEG でも余裕ある連続撮影可能枚数を実現しています。

製品名	希望小売価格	発売日
EOS-1D X Mark III	オープン価格	2020年2月中旬

※1 総画素数約 2140 万画素。

※2 4K(59.94fps/50.00fps)。Canon Log は、キヤノン独自の Log ガンマ。

※3 質量はバッテリー、カードを含む。CIPA ガイドラインに準拠。

● 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンお客様相談センター

050-555-90002

● E O S ホ ー ム ペ ー ジ : canon.jp/eos

<主な特長>

1. 新開発のフルサイズ CMOS センサーと新映像エンジン「DIGIC X」による基本性能の向上

- ・新開発の有効画素数約 2100 万画素フルサイズ CMOS センサーと、新映像エンジン「DIGIC X」や AF 専用センサーなど、キーデバイスを一新し、基本性能が大幅に向上。
- ・CMOS センサーの低ノイズ化と「DIGIC X」によるノイズリダクション性能の向上により、静止画常用 ISO 感度が最高 ISO102400 まで拡大。暗所でもノイズを抑えた撮影が可能。
- ・新開発の 16 点分離ローパスフィルター「GD^{※1} ローパスフィルター」により、4 点分離であった従来機種より解像感が向上。斜め方向にも分離することで、斜め方向の色モアレや縦横方向の輝度モアレも効果的に抑制。
- ・それぞれのレンズ^{※2}設計値に基づいた補正を行うことで収差や回折ボケを適切に補正する「デジタルレンズオプティマイザ」が RAW 現像時だけでなく撮影時から使用可能。
- ・人間の視覚特性に基づく HDR PQ ガンマによる HEIF (10bit) 記録が連続撮影時も可能^{※3}。ハイライト部での滑らかな階調や深い色合いを再現。
- ・AF・AE (自動露出制御) を追従させながら、光学ファインダー撮影において最高約 16 コマ/秒、ライブビュー撮影において最高約 20 コマ/秒の高速連写を実現。さらに、RAW/RAW+JPEG で 1,000 枚以上の連写を実現。

※1 Gaussian Distribution=ガウス分布。

※2 現行の EF レンズデータはカメラ内に保持。TS-E レンズは非対応。

※3 電子シャッター撮影時を除く。



新映像エンジン
「DIGIC X」

2. 新開発の AF センサーと AF アルゴリズムによる高精度 AF を実現

- ・従来機種で開発したミラー振動抑制システムをさらに発展させた新ミラー駆動システムを開発。光学ファインダーにおける像消失時間を短縮し、高速撮影時も被写体を追いやすいファインダー視野を実現。
- ・従来のラインセンサーではなく、正方面素を高密度に配置した「High-res AF センサー」を新たに搭載。最大 191 点 (クロス測距点最大 155 点) の測距点から得られる高解像な信号を解析することで、光学ファインダー撮影時に高い合焦精度を実現し、AF 測距輝度範囲が拡大。
- ・光学ファインダー、ライブビューのいずれの撮影時においても、ディープラーニング技術を用いて開発した頭部検出アルゴリズムにより、顔や瞳が検出できないときでも安定した追尾を実現。さらにライブビュー撮影時は、被写体の瞳を検出してフォーカスを合わせる「瞳 AF^{※1}」も併用可能。
- ・高い追尾性を実現する「AI サーボ AF IV」を搭載。撮影する被写体に合う AF 特性を選ぶだけで AI サーボ AF/サーボ AF 撮影を行える「AF カスタム設定ガイド機能」に、「被写体追従特性」と「速度変化に対する追従性」を自動的に設定する AF 特性「Case A (Auto)」を追加。また、動体に対するアルゴリズムの進化により、かげろう^{※2}や遠ざかる被写体でも精度の高い AI サーボ AF/サーボ AF が可能。
- ・各画素が撮像と位相差 AF の両方の機能を兼ねる「デュアルピクセル CMOS AF」が進化。ライブビュー撮影において、映像表示範囲の最大約 100% (縦) × 約 90% (横) ^{※3} で AF が可能。さらに、自動選択時 AF エリア分割数の細密化 (最大 525 分割) により、被写体を捉えて滑らかに追尾することが可能。「DIGIC X」との組み合わせにより、ライブビュー撮影時の AF 測距輝度範囲が拡大。



新ミラー駆動システム

※1 「顔+追尾優先 AF」時に機能。ワンショット AF、サーボ AF、動画サーボ AF で使用可能。初期設定では、カメラに近い方の目を自動選択します。同程度の距離の場合には、画像中央に近い方の瞳が自動選択されます。手動で任意の瞳を選択することも可能。

※2 ファインダー撮影時のみ対応。

※3 一部非対応の EF レンズあり。AF エリアが約 80% × 約 80% となるレンズでは、自動選択時 AF エリア分割数最大 315 分割。

3. 4K/60P/YCbCr 4:2:2/10bit/Canon Log による高精細で階調性の優れた動画性能

- YCbCr 4:2:2/10bit/Canon Log に対応しており、階調と色彩の再現性に優れた動画の内部記録が可能。また、RAW データによる動画の内部記録もできるため、RAW データの解像度や階調性、編集耐性の高さを生かし、高度な動画編集や静止画切り出しを実現。
- クロップ（切り出し）なしのオーバーサンプリング*による 4K/60p 動画の撮影を実現。風景などのシーンにおいて、レンズの画角を生かした動画撮影が可能。また、設定を変更することで、クロップした 4K 動画の撮影にも対応し、クローズアップした迫力のある撮影が可能。

※ 記録画素よりも大きなデータから、記録映像を生成する手法。

4. プロのニーズに対応した通信機能と操作性

- スマホなどの携帯端末への Wi-Fi/Bluetooth®による接続に対応*¹。また、撮影地点の位置情報を自動的に記録する GPS 機能も搭載。プロが求める効率的な画像管理に貢献。
- 有線 LAN 機能で高速インターフェースを採用し、従来機種より高速に画像データの転送が可能。
- ネットワーク接続に関するユーザーインターフェースを従来機種から改善。メニューにネットワークタブを新設し、通信機能の設定から活用までを集約。通信設定をあらかじめオフラインで編集可能なため、複数ネットワークの設定も効率化。
- FTP、FTPS に加え、SFTP*²での転送が可能となり、最新の認証・暗号化通信技術に対応した安全性に優れた通信を実現。LAN 接続の認証規格である IEEE 802.1X に対応し、スポーツイベント会場など、EAP 認証*³が求められる環境に対応。
- タブレット端末上でほとんどの撮影操作、設定が完結できる機能「Browser Remote」（2020 年 4 月ファームアップ予定）により、タブレット端末とカメラ本体の接続時に、SSL*⁴暗号化通信に対応し、遠隔操作時の安全性が向上。従来の「EOS Utility」に加え、「Browser Remote」でも主要な新聞社/通信社の参画する IPTC（国際新聞電気通信評議会）のメタデータが編集可能。
- “ロボティックカメラシステム CR-S700R”（2020 年 2 月下旬発売予定）に対応し、遠隔操作を実現。
- 堅牢性と軽量化を両立できる高い剛性を備えたマグネシウム合金製ボディの採用により、高い信頼性を確保。カメラ本体の外装部品に新構造を採用し、従来機種より約 90g 軽量化した質量約 1,440g を実現。
- 50 万回の作動試験をクリアしたシャッターユニットを搭載。
- CFexpress 用のダブルスロットを搭載。CFexpress カード採用による書き込み速度の向上と、RAW+JPEG でも余裕ある連続撮影可能枚数を実現。
- 電源には「バッテリーパック LP-E19」を使用。電力消費マネジメントの見直しにより、撮影可能枚数が約 2,850 枚*⁵に増加。
- AF スタートボタン内部に指の動きを光学的に検知するポインティングデバイス「スマートコントローラー」を新たに導入。ボタンから指を離さずにすばやく AF 測距点位置を設定することが可能。
- 暗所でのメニュー操作や再生操作をサポートするため、背面の一部の操作ボタンにバックライトを採用。



バックライト対象ボタン（黄色）
スマートコントローラー（赤色）

※1 Bluetooth Low Energy 技術に対応。以降の表記においては Bluetooth と記載。Bluetooth 機能の動作条件は、接続機器が iOS/Android™:Bluetooth 4.0 以上を搭載するデバイスです。ただし、上記の動作条件を満たす機器であっても、機種によっては、Bluetooth 接続ができない場合があります。Bluetooth 接続ができない場合でも、機器と Wi-Fi 接続による画像の転送、リモート操作は可能です。なお、Bluetooth 接続には、事前にカメラと携帯端末をペアリングさせておく必要があります。カメラと携帯端末の Wi-Fi や Bluetooth での接続には、キヤノン専用アプリケーション「Camera Connect」のインストールが必要。

※2 秘密鍵・公開鍵でファイルおよび認証情報を暗号化する転送プロトコル。内蔵 Wi-Fi は SFTP に非対応のため、無線接続で SFTP 転送をする場合には「ワイヤレスファイルトランスミッター-WFT-E9B」の使用が必要。

※3 PPP Extensible Authentication Protocol のこと。LAN 接続時、認証サーバーを使用してユーザー認証を行うための仕組み。

※4 Secure Socket Layer のこと。Web サーバーとブラウザなどの Web クライアントの通信を安全に保つための仕組み。

※5 ファインダー撮影時、CIPA 規格による。電池は「バッテリーパック LP-E19」、キヤノン試験基準 325 GB カード (CFexpress 1.0/Type B)を使用。

<主なアクセサリ（別売り）>

■ “ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E9B”

- ・従来機種「ワイヤレスファイルトランスミッターWFT-E8B」（2016年4月発売）と同様に2.4GHz帯と5GHz帯の無線LANに対応。
- ・IEEE（米国電気電子学会）が定める5GHz帯の高速通信規格「IEEE 802.11ac」で新たに2x2 MIMO^{※1}に対応し、従来機種より高速に画像データの転送が可能。
- ・最大約150mの長距離無線通信に対応^{※2}。
- ・デジタルシネマカメラ「EOS C500 Mark II」（2019年12月発売）にも装着可能。



WFT-E9B

※1 Multi-Input Multi-Output。複数のアンテナを搭載することで通信品質を向上させる技術。

※2 アクセスポイント接続時。送受信アンテナ間に障害物、遮蔽物がなく、他の機器との電波干渉がない場合。

製品名	希望小売価格（税別）	発売日
ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E9B	8万円	2020年2月中旬

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。

- * Wi-Fi®、Wi-Fi Alliance®、WPA™、WPA2™およびWi-Fi Protected Setup™はWi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- * Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- * iOSは、米国およびその他の国々におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- * AndroidはGoogle LLCの商標です。
- * その他、記載されている会社名、製品・サービス名は一般に各社の商標または、登録商標です。